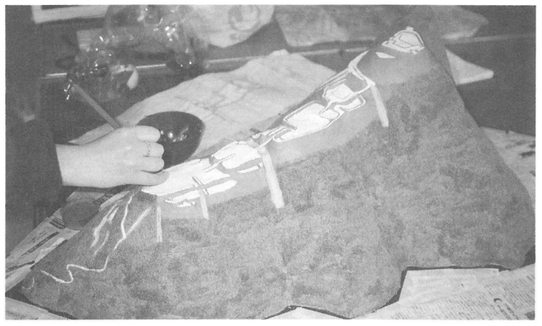
遺跡の模型を作る　*伊吹町*

伊吹山中にある山岳寺院や山城跡は標高700ｍの高所にあり老若男女だれもが近づける遺跡ではありません。発掘調査後の遺跡の多くは開発工事によって二度と見ることはできません。資料館計画に伴って、このような遺跡の立体模型を手作りしましたので少し紹介します。

それぞれの測量図の等高線を、厚さ約７㎜のスチロール製パネルに順に落とし細工用カッターで切っていきます。これを木工用ボンドで貼り合わせます。このとき、パネルに直径10㎝位の穴を数ヶ所あけたり、釘を台に打ちつけるとあとで曲がりません。

全部貼り付けるとこれだけで遺跡が立ち上がります。ニスを塗ってパネルのすき間をなくし、表面に超軽量紙粘土を薄く貼っていきます。いろいろ比べてみてこのタイプの粘土が縮み具合も少なく表面がきれいに仕上がりました。粘土に下地剤を塗り、アクリル絵具で地面を一色に塗ってから坊跡や土塁、道等を別の色で着色します。

必要な部分に薄めたボンドを塗って、緑や茶色の模型用パウダーをふりかけます。木はフラワーアレンジメントなどで使うオアシスを１㎝角前後に切ってパウダーをボンドでまぶします。パウダーは数色を混ぜたものを４種類ぐらい用意します。あちこちの資料館の模型を見て、とりあえず写真のような作品を１個１月かかって完成しました。（高橋順之）



上平寺城の模型作成中！

情　報　BOX

◆近江町教育委員会では下記の報告書を刊行しました。
『息長古墳群』
北近江３大古墳群の１つ「息長古墳群」を紹介した冊子。狐塚５号墳出土の形象埴輪、山津照神社古墳発見を記す明治年間の絵図資料などカラー図版を加えて紹介。（近江町地域文化叢書　第１集）
◎問い合わせ先
近江町教育委員会　社会教育課
☎0749（52）3111

◆伊吹町文化財専門委員会では、小中学生を対象に、町内の指定文化財や自然・文化遺産45件を分かりやすく解説した学習資料を作りました。
『訪ねてみようふるさと伊吹の文化財』
◎問い合わせ先
伊吹町教育委員会　生涯学習課
☎0749（58）1121

◆伊吹町教育委員会では、下記の文化財関係の冊子を取り扱っています。
『伊吹町の文化財』（800円）
『いろりばた　伊吹町の昔話』（1,000円）
『伊吹山寺』（500円）
『弥高寺跡調査概報』（500円）
『伊吹山ミニ辞典』（800円）
『伊吹の植物ガイドブック』（300円）
◎問い合わせ先
同上（伊吹薬草の里文化センター内）

◆◆編集後記◆◆

『佐加太』第６号をお届けします。

今回から編集担当が交代しました。内容については前号までを踏襲して、郡内の発掘調査速報を中心に、埋蔵文化財以外の情報も盛り込みながらまとめていこうと思っています。

今回の表紙は、山東町にある観音寺坊跡調査を取り上げました。郡内では、このほかにも、伊吹山腹の弥高寺跡や長尾寺跡、霊仙山麓の松尾寺跡の調査など、山岳寺院関係の調査が積極的に行われています。次回は、米原町の松尾寺跡調査速報を紹介する予定です。

お楽しみに。

坂田郡文化財ニュース
佐　加　太　第６号
発　行　平成９年６月30日
編　集　坂田郡社会教育研究会文化財部会
事務局　〒521-03滋賀県坂田郡伊吹町春照37
伊吹町教育委員会生涯学習課
0749（58）1121
印　刷　立木印刷

坂田郡文化財ニュース
佐加太

第　6　号
1997年６月30日
滋賀県坂田郡社会教育研究会
文　化　財　部　会

佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました。

観音寺坊跡の調査

山　東　町

観音寺遺跡の調査については、『佐加太』創刊号・第４号でも紹介してきましたが、本号ではそのまとめとしてお届けしたいと思います。

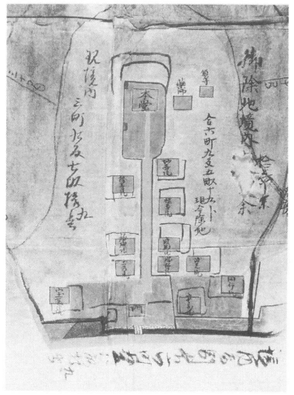
地形測量　観音寺遺跡が横山丘陵から派生する舌状丘陵の谷部全域に周知されていることから、南北約250ｍ、東西約100ｍの約25,000㎡について地形測量を実施しました。その結果、観音寺参道の両側に坊跡と考えられる区画をほぼ23ヶ所確認できました。削平地は最大で約42×20ｍ（以上）、最小で約20×18ｍ（以上）を測り、長軸をほぼ東西に揃えています。

発掘調査　発掘調査については、創刊号と第４号にも紹介していますとおり、一見無造作に投棄されたように見えた栗石群も、トレンチ西側の栗石はその東側の面を揃えていることから、参道側を意識した建物礎石の台石と思われます。このことを現存する建物から考えた場合、坊の入口の長屋門ではないかと想定されます。また、その東に規則性を持った南北に方向性を示す栗石が更に東に伸びることから、坊舎等の建物が考えられます。

これらの他には、長径約1.4ｍを測る杉材を使った井戸と、それに伴う瓦敷きの水路が見つかりました。出土品としては、江戸時代後半頃を中心とした瀬戸美濃の皿・壺・鉄釉天目茶碗、越前の甕・壺、木製品（箸・蓋）などが出土しました。

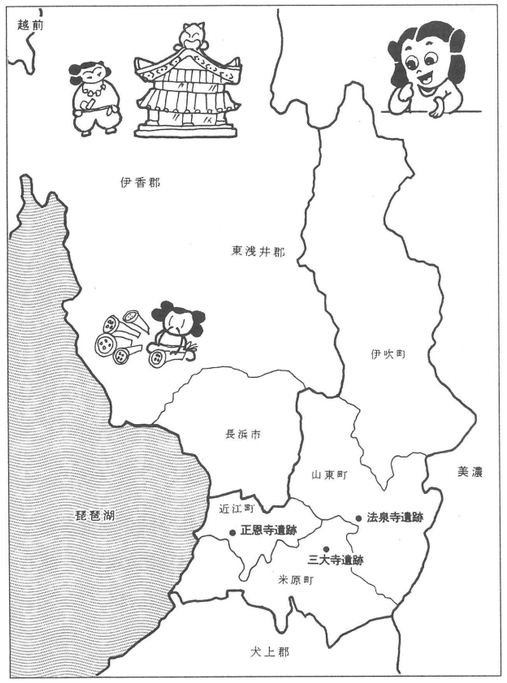
古絵図　観音寺には近世文書の中に数葉の絵図が残されています。その中で11の坊や院名が描かれた物があります。ただ、この絵図からは往時の勢いを感じ取ることは出来ません。また、この絵図には年号が記されておらずいつ頃の物か定かではありませんが、恐らく江戸時代末の物であろうと思われます。

まとめ　今回の調査については、資料の蓄積という点で当初の目的を達成したのではないかと思います。測量調査による多くの削平地（区画）の確認、発掘調査による江戸時代後半頃までの長屋門・坊舎の存在を確認できたことは意義深いものがあります。ただ、寺観を形成していく中での整地等について情報が得られなかったことは、今後の課題となります。また、今回多くの情報を提供してくれた観音寺遺跡及び観音寺の景観の保存と活用も大きな課題です。（桂田峰男）



観音寺古絵図

観音寺遺跡地形図



坂田郡の遺跡案内　*古代寺院編－その1－*

坂田郡内では、飛鳥期に溯る寺院跡は確認されていませんが、白鳳期に属する遺跡が数箇所で確認されています。なかでも代表的な古代寺院は、米原町枝折に所在する三大寺遺跡です。美濃に通じる東山道に面し、近江最東端地域の一画に位置します。

三大寺遺跡では、2系統の軒瓦の出土が知られています。その1つは、単弁八葉軒丸瓦に重弧文軒平瓦が組み合わさったもので「山田寺式」の系統にあるもの。もう1つは、複弁八葉軒丸瓦に扁行唐草文軒平瓦が合わさったもので「本薬師寺式」の系統にあるものです。またこれまでの調査では、主要伽藍を構成する建物も確認されています。

三大寺遺跡の北東2㎞には、山東町本郷の法泉寺遺跡が所在します。ここでは、三大寺遺跡と同様に「山田寺式」「本薬師寺式」2系統の軒瓦が出土しており、屋瓦の運搬に「大野川」が利用されたものと推測されています。

また三大寺遺跡を西方に4㎞下ると近江町飯の正恩寺遺跡が所在します。この寺院は、河口部の沖積作用によって埋没した寺院跡で、「山田寺式」系統の軒瓦が出土しています。

京極氏館跡庭園（その1）　*伊吹町*

前号では京極氏の上平寺城下町跡の試掘調査について報告しました。今回は、集落の山手、伊吹神社境内にある上平寺館跡内の庭園遺構の測量調査について2回にわけて紹介します。

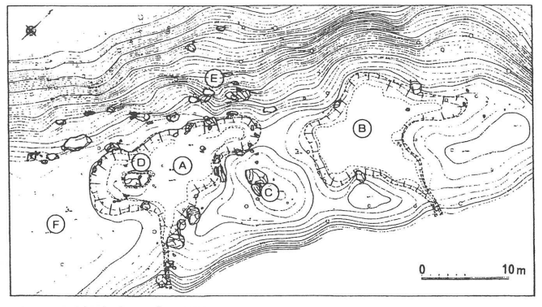
上平寺館跡には、領主京極氏の屋敷跡とこれに伴う庭園遺構、大津氏や隠岐氏といった重臣の屋敷跡や蔵屋敷などの削平地が配置されています。また、最上段の伊吹神社左手には京極一族の五輪塔が並んでいます。

この地に15代京極高清が湖北支配のための館を構えたのは16世紀前半のことです。大永三年（1523）浅井亮政らのクーデターにより上平寺城が消失します。京極氏館跡庭園はこの間に作庭されたものと考えられ、時期が限定できる貴重な武家庭園として注目されます。

京極氏館跡は南北約68m、東西約35mの削平地で、更に北へ約60m、幅約30m張り出したテラス状の削平地に庭園遺構が残っています。

庭園跡は図のように2つの池跡（A・B）と、池にはさまれ巨石「虎石」が据えられた築山（C）を中心に、山側斜面に多くの石が配されています。南側の池は護岸の石も比較的よく残り、石を添えた中ノ島（D）があります。斜面の石組（E）は池に水を流し込む滝口を思わせます。おそらく、南の平坦部（F）に小さな建物があり、そこからこの庭園と川戸谷の四季を観賞したのでしょう。

（高橋順之）



京極氏館跡庭園実測図

海を渡った黒曜石　*米原町*

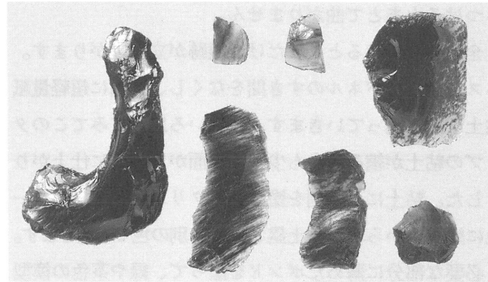
米原町内の縄文遺跡から、滋賀県では出土例の少ない黒曜石が出土しています。こうした黒曜石を蛍光X線分析にかけることによって原産地を限定することができます。

磯山城遺跡から出土した8点の黒曜石は分析の結果、5点が久見産、3点が不明という結果が得られました。久見とは日本海に位置する島根県隠岐島に所在する黒曜石の原産地です。

筑摩佃遺跡から出土した7点の黒曜石は分析の結果、6点が霧ヶ峰産、1点が神津島産という結果が得られました。霧ヶ峰とは長野県に所在しており、和田峠、男女倉とともに従来より黒曜石の原産地として有名です。神津島とは太平洋に位置する伊豆諸島に所在する黒曜石の原産地です。

従来近畿地方より出土する黒曜石は漠然と和田峠産と考えられていました。ところが蛍光X線分析の結果、隠岐島や神津島などから海を渡って持ち運ばれたことが明らかとなったわけです。現在のところ米原町の縄文遺跡から出土した黒曜石のうち、久見産のものはその最東限地に、神津島産のものはその最西限地となっています。これは米原町が東日本文化と西日本文化の接点にあたることを端的に物語っています。

米原町より200㎞以上離れた隠岐島や神津島の黒曜石が持ち運ばれたことには驚かされますが、石器は縄文時代には日常品であることから、米原の縄文人がこれら原石産地地域の情報を日常的に入手していたと考えられます。（中井　均）



筑摩佃遺跡出土の黒曜石

靫形埴輪　*近江町*

息長古墳群の中には、全長30mを測る6世紀初頭の帆立貝型古墳「狐塚5号墳」が所在します。この古墳は水田下から発見された埋没古墳であり、造り出し部を中心にして多数の形象埴輪が出土しています。

ここに紹介する「靫形埴輪」は、高さ65㎝に復原されました。基部は、突帯が3本貼り付けられる円筒部に、靫部本体が接合されています。矢を入れる筒部は箱形となっており、その周囲に大きな背板が付けられています。この背板は、上部が逆台形の形をしており、まわりに鰭飾りを施しています。また靫部全面には、線刻で「直弧文」等が描かれています。

これらの特徴は、滋賀県八日市市・竜王町に所在する雪野山古墳より出土した古いタイプの靫に類似したもので、これら古いタイプの靫を模した「靫形埴輪」の系譜をひくものと考えられています。

なお5号墳に隣接する円墳「狐塚1号墳」からも「靫形埴輪」の出土が確認されています。

靫形埴輪（狐塚5号墳）